

健苗育成により 良質茎・初期生育の確保！！



新潟地方气象台の一月予報(3/21～4/20)によると、天気は平年と同様に数日の周期で変わる見込みで平年より気温がやや高くなる可能性もあります。特にハウスでの温度管理はこまめに行い苗ヤケには十分注意しましょう。

また、近年強風によるハウスやビニール等の被害が発生していますので天気予報をよく確認し強風が予想される場合には早めの対策を心掛けましょう。

【浸種～催芽】

- ・26年産米コシヒカリBL種子の休眠は「平年並み」と推測されます。
- ・均一な出芽と病害抑制のため浸種・催芽の際は適正な温度を守り処理しましょう。
- ・浸種初期の低温(10℃以下)は発芽不良を招き、催芽時の高温は細菌性の病害発生を助長します。

消毒処理方法	水の更新
化学合成農薬(モミガードC, テクリードC)	浸種開始から4日間は水の更新はしない。その後2日置きに交換
温湯消毒・生物農薬の催芽前(時)処理	雑菌が繁殖しやすいので、水の汚れ具合を確認し適宜水更新する。

【ばか苗病・細菌性病害対策について】

- ・近年温湯消毒や生物農薬の普及により、ばか苗病やもみ枯れ細菌病等種子伝染性病害が増加傾向にあります。
- ・細菌性の病害は30℃以上、ばか苗病は26℃で発病のリスクが高まります。温度管理と種子消毒の適切な処理が重要です。(浸種温度=10～15℃、催芽温度30℃)

前年に細菌性病害が発生した場合、化学農薬での種子消毒をおすすめします（JA特栽米には不該当）

【播種のポイント】(適量：乾粃140g 催芽粃170～180g)

・「均一にうす播きすること」が重要です。過密条件では育苗障害や軟弱徒長苗の原因になりますので播種量を調整してください。

薄播きのメリット!!

- ① 育苗障害にかかりにくい
- ② ズングリ苗で活着良好
- ③ 種子節約でコスト削減

厚播きにすると.....

- ① 苗障害が発生しやすい
- ② 軟弱徒長苗で活着不良
- ③ 適正播種量に比べコスト高

【水管理のポイント】

- ・高温時はしっかり灌水しますが、低温の場合はなるべく灌水を控え被覆資材で保温に努めてください。
- ・緑化～硬化期前半は1日1回、気温と温度差の少ない午前10時までに灌水しましょう。後半は1日2回を目安に灌水し、育苗の後半は温度も高くなり床土が乾きやすくなるので注意しましょう。
- ・夕方灌水すると土の温度が下がり根の生育が阻害される可能性があります。表面が乾く場合でも葉先に水滴がつくようであれば床土の水分は十分です。

【温度管理のポイント】

- ・出芽期の高温は短時間でも「重大な苗ヤケ原因」になるので積極的に換気を行ってください。
特に小さいハウスは温度の変化が大きいため注意が必要です。
- ・30℃以上にならないようにハウスの風下側を開けて換気をしましょう。
- ・夜間の低温(8℃以下)ではムレ苗が発生しやすくなるので被覆資材を掛けるなど保温に努めてください。

【育苗管理 ～天候不良に負けない強い苗を作りましょう～】

※苗の生長と限界温度の目安（ハウスには必ず温度計を設置してください）

	時期	温度	障害の症状・程度	
低温害	1葉期	2～4℃	20時間程度で葉の奇形等が発生する。	
	2葉伸長期	5℃	5時間程度で伸長が停止する。	適温で回復する。
	2葉展開期	5℃	5時間程度で葉のしおれが発生する。	
高温害	出芽期	42℃	42℃以上で出芽率が極端に低下する。	
	本葉期	30℃	呼吸・消耗が盛んで、異常徒長する。	
		43℃	20～30分で生長点が枯死する。	
		49℃	1分程度で枯死する。	

	出芽期		緑化期	硬化期
期間	加温出芽2日	無加温出芽5日	2～3日	12～14日
温度	28～30℃	昼 28～30℃ 夜 15℃以上	昼 20～25℃ 夜 15～18℃	昼 15～20℃ 夜 10℃以上

	出芽期	緑化期	硬化期
被覆	芽の伸び過ぎに注意しましょう。 シルバーポリトウ#80とラプシートの二重被覆 被覆資材を育苗箱の下に巻き込みましょう。 ハウス内の温度が30℃以上にならないよう換気を行いましょう。	ラプシート等の一重被覆 低温時は二重被覆で保温に努めましょう。 第1葉が展開したら硬化に移しましょう。	無被覆とするが夜間の霜が予想される場合は被覆しましょう。 換気を十分に行い、しっかり硬化させましょう。 田植5～7日前から夜間も換気を行いましょう。
水管理	出芽器の種類により灌水に注意しましょう。 ※蒸気式は少なめ 覆土のもち上がりが見られたらさっと灌水して覆土を沈下させ緑化に移しましょう。	播種時に十分灌水しましょう。 過湿に注意！根張りが悪くなります。 水分状態を確認し遅くとも午前10時までに灌水しましょう。	硬化期前半は1日1回午前中に十分灌水しましょう。 低温が続く場合は、かん水を控え床土の保温に努めましょう。 後半は1日1～2回十分灌水但し夕方はさけましょう。

近年、育苗期の高温により苗ヤケが多く発生しています。特に新しいビニールは、温度が上がりやすいので十分注意してください。

生育目標	<p>〈出芽終了時〉</p> <p>1cm 根数1本</p>	<p>〈緑化終了時〉</p> <p>5cm 3cm以内 0.7cm</p>	<p>12cm 10cm 5cm 3.5cm 第1葉 稍長</p> <p>〈硬化終了時〉</p>
------	------------------------------------	---	--

プール育苗のポイント

- ① 入水後は原則として昼夜ともビニールは開放しましょう。(但し、霜などの低温が予想される場合は閉める)
- ② 苗が徒長しやすいので換気の徹底をしましょう。(強風対策としてハウスの外周に防風ネット張ると良い)
- ③ 水温が上昇するような日が続く、苗の徒長が心配される場合は水の入替えを行いましょう。
- ④ 田植後の活着促進を図るため必ず追肥資材(べんとう肥)等の施用をしましょう。
- ⑤ 根量が多くマット形成は良好であるが低温に対する抵抗力が弱いので低温時の移植はなるべく避けましょう。